定年退職に際して

小　川　　博（植物園）

終戦後，身体をこわして遊んでいた処，知人に誘われ，西千葉に所在した第二工学部に就職，生産技術研究所，経理部，環境安全センター，附属図書館，理学部附属植物園と東京大学の構成員として44年過ごしてしまいました。

顧みますと，種々思い出もありますが，秋田県道川海岸における観測用ロケット飛翔実験に出張した時のこと，当時は，実験主任を始め，多くの研究者・技術者（ロケット班，計測班等）は秋田市内に宿泊し，少数の総務担当が現地泊でした。

ロケットが雲の彼方に消え，実験が終了すると研究者等は，持参した観測器具をコンテナーなどに収納し，帰京の準備に取りかかるが，総務班の業務は，数十名のアルバイト学生・地元青年団員等に「賃金」を支払わなければ，帰る事が許されず，実験班員が傭上げたバス等で，夕刻，秋田市内へ出発したあと，出勤表を点検し，徹夜で給与計算，翌日，眠い目を擦りながら秋田市内の銀行で現金化，午後には実験補助者に支払う，と云う現在の様な給与の口座振込制度の無い時代であった為，大変苦労した。

鹿児島県内之浦での飛翔実験初期の頃も，この様な賃金支給形態が続いた。

学内共同教育研究施設である，環境安全センターに勤務中は，稲本直樹先生，奈良坂紘一先生および中田賢次さんに種々ご指導いただいた。特に，中田技官には実験廃棄物の管理，廃蛍光灯等・含水銀廃棄物回収の取まとめなど，学部内の環境保全，総てに亘ってご協力を頂きました。センター・O・Bとして，この誌上をお借りして改めてお礼申しあげます。

附属図書館での4年次に亘る館内改修に際しては，床・壁・天井・外壁等，改修が総てにわたったため，施工業者の工程表に基づき，工事個所が管理部門であれば，業務に支障の無い様に，机・ロッカーの移動・内線電話の移設など，また，閲覧室等共用部分であれば，臨時閲覧場所の設定，閲覧机・書架・蔵書の移動等，その都度，担当課長（総務・整理・閲覧）などと協議し，閲覧サービスに支障の無い様に努め，改修個所によっては，

3カ月程閉室する事もあったが，幸に利用者からは，埃・騒音・閲覧席の狭隘等に関しての苦情は少なかった。

利用者に対する，掲示などによる事前の周知徹底も一因だが，施設部担当者の工期短縮など，利用者サービスにご理解いただいた結果が大いに作用したと，感謝している。

最後になりましたが，附属植物園は2年間という短い期間でしたが，16ヘクタール余という敷地を有し，都心には珍らしい静かな環境の中で，毎日緑を眺めて勤務することが出来たのは，大変な仕合わせでした。

ただ，残念なことには，植物の育成・管理に当る技官が定年などにより，年々減っており，樹木の剪定・下草刈など園内の手入れも充分とは言えないのが現状です。

また，大温室も昭和39年に改築してから25年を経過し，鉄骨も部分的に腐蝕が目立ち，硝子は劣化しており，風の強い日には一部落下し，破片が周囲に飛散した事もあり，入園者に被害を及ぼさなかったから良かったが，部分的に補修をして何とか維持しています。

園内整備については，理学部・経理部・施設部の関係の方々のご理解を頂いておりますが，従来にも増してご援助を賜ります様，去り行く者から改めてお願い申しあげます。

残す処，2カ月で東京大学ともお別れするのですが，振り返って見ますと，只，馬齢を重ねただけで，今日あるは，それぞれの部局でお世話になった多くの先輩・同僚の方々の暖かいご指導・ご支援の賜と，心から御礼申しあげます。

最後に，理学部・植物園の皆様のご健勝と一層のご発展をお祈り申しあげます。